

# 栃の木からの手紙

2017年 7月号



6月1日頃から始まった大豆の発芽。左写真は6月下旬。緑の筋がハッキリと見えています。これは雑草の筋で大豆は殆どありません。ハトの食害対策の為に黒ビニールを棒に縛って20数本立てて置いても、その周辺が僅かに被害に遭わないだけで全滅状態。ハトの食害に遭っても再生する大豆もありますが下写真の様に本来の大豆より小さく収量も少なくなります。

大豆を播き直すかどうか？6月25日の収穫体験行事で畑の状況を確認し、非常に残念ですが、大豆を廃耕して29日に休閒緑肥のキカラシを播きました。

7月 文月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2日： 半夏生（2011年7月号参照）

7日： 小暑

9日： 満月 : 旧 5月 16日

22日： 家庭菜園セミナー

「自然農法畑 お芋で花見」

～ 野草で挿し花 ～

一面の花畑、芋の花を見た事がありますか？

時間： 10時から昼まで

場所： オホーツク高橋農場

23日： 大暑 新月 : 旧 6月 1日

【 時期 】

黒大豆： 2015年 2016年 2017年

播種日： 5/23 5/27 5/22

出芽日： 6/4 6/8 6/1

大豆のハトによる食害は、大豆が発芽して双葉を地表に出し始める時に発生する。食害は、大豆の播種時期によっても変動する様ですが過去3年間の各日付は大して差が無い。

「カッコウが鳴いたら豆類を播け」。これは豆類の生育気温や降霜被害を考慮しての先人の知恵。しかし、ハトは5月にはすでにこの地域に遣って来ています。

食害対策で黒ビニールを棒に縛って立てていますが、最近気付きました。黒ビニールの透過性の違い。本物のカラスは光を通さないですね。黒ビニールを使用する際には、この点に注意。

左写真は、大豆苗ですが、4本の内の右2本が食害後の再生苗。全ての苗が再生する訳ではありませんが、正常苗を小さくした感じで収量は少なくなります。

